

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

11
2015
NOVEMBER

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた

30
th



北海道東北ブロック支部長・ 地区長交流会

互いの顔と経営が見え、本音で語り合える支部づくりを

第1回合同企業説明会開催

わが社と地域の中小企業で働く魅力を伝える

第27回社員共育活動全国研修・交流会in山形(11.19~20)

各分科会・記念講演 ここが学びのポイント!

山形同友会
創立30周年!
より地域に
必要な存在へ!!

2015年度スローガン

互いの顔と経営が見え、本音で語り合える支部づくりを

10月8日～9日、「2015北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会」が秋田県仙北市で開催されました。北海道東北の各同友会役員との交流を通して、お互いの経験や悩み・課題などを学びあい、これからの同友会活動や、企業づくり等についてのヒントやエネルギーを持ち帰るを目的とし、山形同友会からは理事や支部役員11名が参加しました。参加された支部長の感想をご紹介します。



北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会に参加して

山形支部長 阿部秀顕氏

先日、秋田は田沢湖で行われた北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会に参加しました。毎年各地から同友会の地域リーダーが集まって学び交流し、それぞれの地区の課題や特徴などを出し合いながら、それらを持ち帰り地区活動に活かそうとしている会と認識しています。11月には山形で第27回社員教育活動全国研修・交流会が開催されることもあり、山形からPRも含めて11名で参加してきました。

最初に渋谷レックス㈱の渋谷順子社長から、ここ数年間の自社経営の報告や、地区長としての同友会運営についての思いをお話いただきました。同友会をとおして自社経営

をしっかりと確立され、同友会の良さを心から感じ、同じ経営の悩みを持っている仲間を増やしながら学んでいこうとする姿勢には元気づけられました。同友会の良さを体感して、感謝しているからこそ誘える。はたして同じことができているだろうか？新しい人を誘う時に相手のことを考えすぎて躊躇していないだろうか？経営課題がない経営者はいないはず、もっと積極的に声がけをしていかないといけないなど感じさせられました。増強も含め、支部活動の今後に活かせる学びがたくさんあり、各地の皆様とネットワークも広がり実のある交流会となりました。

支部づくり・地域づくりを学んで

置賜支部長 長沢 武氏

私は置賜支部長に任命され3年目となり、この交流会は天童市で開催された昨年と今回で2回目の参加となりました。交流会の目的として、「同友会の日常活動を支える支部長・地区会長が魅力ある支部・地区会づくりと地域づくりのために、交流を通してお互いの経験や悩み・課題などを学びあい、これからの同友会活動や、企業づくり等についてのヒントやエネルギーを持ち帰る」と明記されており、参加の意義を確認しました。

1日目の渋谷レックス㈱ 代表取締役 渋谷順子氏(福島

同友会福島地区会長)の報告は、「互いの顔と経営が見え、本音で語り合える地区活動」のテーマでした。グループ討論テーマが「増える組織、減らない組織を作ってゆくための課題はなんですか？」ということで、

- ・同友会活動の為の増強では、上辺だけになる。自分の会社の為、地域の為の意識が大事
- ・同友会活動は地域のリーダー格を育てることに繋げていくことになる
- ・会員満足度を上げること(出席率が上がる)が、ゲスト

参加者の満足度を上げることになる。

・成功事例を多数ゲストに聞かせることは効果的だ。

の意見に共感しました。

また、2日目は「中小企業振興基本条例制定と地区会の活動」と題しての報告があり、

・条例の必要性を感じている人がごく一部だけでどうやって興味を持ってもらうか。

・「なぜ理念条例なのか」という理由を伝える必要がある。

・条例は地域を良くすることができる手段である。

・企業づくりと地域づくりは一緒である。

・条例は同友会の三つの目的の「良い経営環境をつくろう」を実践する手段として、有効なのだろう。

という感想を持ちました。

会員づくりは、地域づくり

庄内支部長 佐藤知志氏

支部長になって2年目。昨年に引き続き、北海道・東北の支部長の方々とグループ討論をする機会をいただきました。

討論テーマは、「増える組織、減らない組織を作ってゆくための課題は何ですか？」でした。同じグループになった陸前高田市の組織率(市の企業数に対する同友会会員数の割合)は、29.2%と驚異的な数字でした。鶴岡市の2.6%のほぼ10倍の数字です。実際の活動は、徹底した企業訪問だそうです。勧誘するのではなくその企業の困り事、問題点を聞き、それを解決するための方法を一緒に考えるのだそうです。親身になって話をし、その中で同友会での活動内容を説明すると入会につながったとのこと。庄内支部では、ワン例会ワンゲスト運動を通して会員の増強に取り組

んでいます、思うように進んでいません。もっとも同友会の良さを伝え、「よい経営者」「よい会社」が増えることにより、よい地域づくりができるよう今後の増強活動に生かしていきたいと思います。



日本政策金融公庫との意見交換会

地域活性委員長 越前屋忍

他県では中小企業経営の安定や基盤強化、相互の支援や情報交換等を目的とした、日本政策金融公庫との提携を進めている同友会があります。

山形同友会でも、地域活性委員会を中心に今後に向けての意見交換が始まっています。

そんな中、10月15日同友会事務局において、地域活性委員会と食・農部会そして日本政策金融公庫山形支店の岡総括課長、鈴木農業食品課長代理を交えての意見交換会が行われました。

冒頭、日本政策金融公庫の業務案内、金融商品の説明などが行われ、その後意見交換会に入りました。

日本政策金融公庫に個人補償の有無に関する質問を

したところ、新しい融資については個人補償、担保を原則的に取らないことを方針としているとのことでした。これは、政策金融公庫は国の金融機関であるので、金融庁の方針と同様として考えているとのこと。また、東京都での取り組みとして、日本政策金融公庫が主体となり定期的にビジネスマッチングを開催していて、この特徴として売りたい方を買いたい側に引き合わせ、実際取り引きに発展しているとのことでした。

一時間程度の意見交換会でしたが、中身の濃い意見交換会となりました。日本政策金融公庫とは、地域活性委員会を中心に定期的に意見交換会を行っていくことと致しました。

第1回合同企業説明会開催

わが社と地域の中小企業で働く魅力を伝える



10月15日、共同求人委員会が本格的に活動をスタートして初めてとなる「合同企業説明会」(対象:大学・短大・専門学校・高校)が、山形テルサに於いて開かれました。参加の会員企業15社が設営からブースの準備まで全て手作りで取り組みました。当日は就職活動中の学生27名、進路担当の学校関係者5名が来場しました。

山形県内の高校における新規学卒者の就職内定率が55.3%(9月末)で過去10年間では最高(労働局発表)。理系の学生の8割が企業から内定をもらっているなど、企業にとっては厳しい新卒採用の取り組みが続く中での合同企業説明会です。

はじめに学生向けガイダンスが行われ、挨拶に立った玉津共同求人委員長は「ここに集まった同友会の会員企業は社員さんと共に育ち合うという考えで経営しています」と同友会企業の特徴と地域の中小企業で働くことの魅力について述べました。



続いて参加企業から学生のみなさんへ企業PRが行われた後、各ブースでの説明会が行われました。学生と企業

側が熱く語り合う光景が会場いっばいに広がりました。中には、希望する企業から内定がもらえずにいる学生の焦りや不安に経営者が励まし、アドバイスする場面もありました。

共同求人委員会では2月から県内の大学・短大・専門学校へ訪問活動を行い、同友会の社員教育の考え方や中小企業で働く魅力などを伝えながら進路担当の方々と意見交換を行ってきました。当日お越し頂いた先生からは「学生と企業が真摯にじっくり対話するのはとてもいい」との評価をいただきました。

また、来場した学生からは、「雰囲気がよく、リラックスをして話を聞くことができた」「自分が希望していた企業のお話を聞き、仕事や会社のイメージを思い浮かべることができました。春には自分の就きたい職業で働けるようにしたい」「周りの人達が内定を貰っているので卒業までに内定が貰えるか不安。今日参加して企業が求める人材や仕事内容を知ることができ、良い機会となった」などの声を聞くことができました。



参加企業の経営者は「今年参加した合同企業説明会の中で一番良かった。大学生が多く、今日はじっくり話ができて良かった」「新卒採用はいかに企業の魅力、業界の魅力を伝えていくかが大切と改めて認識した」といった意見を寄せました。

山形同友会の共同求人活動は始まったばかりです。今後、学校の先生方との懇談を重ねながら地域の会員企業で新卒を採用し育てていく取り組みを進め、共同求人への輪を広げていきます。皆さんも一緒に参加しませんか。

各分科会・記念講演 ここが学びのポイント!

第1分科会(宮城同友会)

「大震災からの復興
“地域の創造は自社のイノベーションから”」
～社員と共につくりあげた“10年先の経営計画”～



報告者 住研工業(株)
代表取締役
齋藤 充氏

2011年の東日本大震災で、社屋と自宅が流出、不動産物件(アパート)の8割がなくなりました。震災後には、社員と共に“10年先を見通した経営計画”の作成で、地域に寄り添い、ニーズを捉えて、新規事業も生まれました。

「地域の創造は自社のイノベーションから～新しい価値の創造～」という、気仙沼支部のスローガンを自社経営に置き換えながら、地域のコミュニティの役割を担うことをめざしています。

第2分科会(大阪同友会)

キャリア支援教育から始まる社員教育



報告者 (株)エムツープレスト
代表取締役
増本晃明氏



報告者 長谷川金網(株)
代表取締役
長谷川真司氏

長い共同求人活動のなかで、大卒採用が中心だった大阪同友会。自社のある地域の高校の実態を知り愕然とします。府立高校150校で格差が広がり、足元をみれば就職困難高校もある。「卒業後フリーターにしていいいんか」「戦略にならへんとそのままにしていいいのか」そんな思いから、高校とのキャリア支援教育の取り組みを始めました。高校生の純粋さに経営者が感動し、教員のモチベーションが上がり、自分たちにも可能性があるかと高校生も変わってきます。

地域をみれば、社会の縮図が見えてきます。約10年間、企業づくりにつながり、やりがいのある運動としての取り組みに学びあいましょう。

第3分科会(山形同友会)

車好きでない私が
クルマ屋を継いだわけ
～3つの期待に応えたい～



報告者 (有)大山ボデー
専務取締役
佐藤知志氏

「親の期待・社員の期待・お客様の期待」に応えたいと、(有)大山ボデーに入社。「こごのかいしゃはお〜」(庄内弁)とまるでよその会社のことのように話している社員の会話に唾然としました。「社員を幸せにしたい」「家業を企業に変えたい」「会社の文化を変えたい」と、経営指針を成文化。社員と向き合い、自らの行動を変え、あたり前のことを実践し続けてきました。徐々に会社全体が変化し、社員主導の委員会活動もスタート。業績も10年前の約2倍に、社員も18名から28名になり、心が元気になるような働く環境も抜群よくなりました。

「仕事とは自分の人生を豊かにするための訓練の場」と語る佐藤氏の報告です。

記念講演

社員の“社会力”育てが中小企業と社会を変える(2日目)



講師 筑波大学
名誉教授 門脇厚司氏
(美浦村教育長)

ベストセラー『子どもの社会力』(岩波新書)の著者として知られる教育社会学者・門脇厚司氏。「人が人とつながり社会をつくる力」を「社会力」と提唱して注目され全国で講演しています。教壇を降りた現在、茨城県美浦村の教育長として教育行政をリード、「0歳から90歳までの社会力育て」を掲げた美浦村の社会教育活動は全国から視察が訪れます。

社会力育ては学校・地域・家庭はもちろん企業でも重要という門脇氏が渾身で提言します。

ここがポイント!

“社会力”を単なる社会に適応する力だけではなく、社会をつくり変革していく力と提言。若者や社員に社会力を求めますが、大人だって欠けていませんかと問いかけます。

社会の原点は人。企業のための人材育成から、社会で生きていく力をどうつけていくか。同友会の社員教育の運動は、社会教育運動へと使命がさらに高まっています。社会を運営し、その社会を絶えずつくり変えていくために必要な資質、能力をどう培っていくのか、考えていきましょう。

第7回理事会報告

◆日時:10月14日(水)午後2時～午後4時 ◆会場:山形県産業創造支援センター 1F ◆議長:後藤副代表理事
 ◆出席:(敬称略)川合勝芳、西塔秀幸、後藤智樹、菅原茂秋、齋藤志直、小林敏郎、越前屋忍、玉津弘之、白鳥明美、阿部秀顕、若木義寛、事務局矢作、高橋(理事11名出席)

■開会挨拶(西塔代表理事)

1月の30周年記念式典を控え、また500名達成をめざす重要な時期に参加者が少なく反省している。定時総会でも話しましたが、これは全員で決めたこと。私達の提案は一緒に同友会を良くしようという気持ちでやっているが、残念ながらやらされ感の音が聞こえてくる。自らが自主的に頑張れるような組織になればと思っている。

■報告事項

1)第43回青交会 in 山梨(9/10～11) 5名出席(参加者レポート)

2)北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会(10/8～9 秋田)
(西塔代表理事)

山形から11人が参加。飛行機が飛ばず、北海道の殆どの方が欠席になったが、無事終了。同友会は一つの同友会の力ではなく、成り立っていると感じた。福島同友会では銀行に「悩みは何ですか?」ということを持ち出した案内チラシを置いている。増強は、相手に選んでもらうことが必要と感じた。条例では福島が中小企業の4団体の所へ行き、進めているという話を聞き、そういうことも大事だと思った。

3)第2期低学年インターンシップ報告会の開催(9/25 山形大学にて)
(後藤副代表理事)

会員企業18社で28名を受け入れた。学生がインターンシップを通して学んだことを発表し、それに対して企業側がフィードバックする内容で、その後座談会を行った。最後に松坂准教授よりこの取り組みを学会で発表し、事例集ということで本になるという話があった。

4)第1回合同企業説明会(10/15)(玉津理事)

15社が参加して開催します。10/2、宮城同友会の合同企業説明会に参加した。120名の学生が参加し、地域の高校・大学とのつながりの深さを感じてきた。現在、理系が8割、文系は5～7割が決まっています。福祉業界はこれからといった就職内定状況となっている。

5)2015年度 9月月次決算報告(矢作事務局次長)

■承認事項(入・退会承認) 2名入会 10月14日現在会員数 440名

■討議事項

議題1:第2回増強月間(10月)の取り組み(菅原副代表理事)

1)9月理事会以降の取り組み、①例会ワングスト運動の強化、②「元会員」への再入会のお誘い、③山形支部の増強活動の強化。④増強活動の情報共有などを確認。

目標:理事2名、支部役員1名を達成しましょう。

菅原副代表理事より、北海道東北ブロック支部長地区長交流会で福島同友会の報告に学んだことを紹介。また、組織委員会より下記の提案があった。

- ・各金融機関に同友会パンフ(チラシ)を置くように進めていく
- ・新たな案内パンフの作成
- ・各支部で同友会の活動を知っていただく「同友会を知る会」の開催
- ・例会へのゲスト参加者の情報を幹事で共有する取り組み
- ・退会者リストを各支部に一冊ずつ準備し活用する
- 「何のための増強か」、新会員のフォローの課題、社員共有・地域活性・共同求人などのプログラムを知っていただくことが課題。組織委員会のあり方、「やらされ感」の問題、500名達成に向けて何のためにや

るのかを支部の現状も含めて議論した。出された意見をもとに組織委員会で検討していくことになった。

議題2:第27回社全交の取り組みについて

小林理事より、参加登録の現状が報告され、開催地の目標達成が成功のカギと参加要請があった。当日のタイムスケジュール案が提案され承認された。各分科会の学びのポイントと全体会のポイントが紹介された。

議題3:30周年記念式典(案)について

はじめに開催要項を確認し、菅原副代表理事より、参加目標の提案があり、下記のように決定した。

●参加目標(150名)

支部名	2015年新春交流会実績数	目標数
山形	81	100
寒河江	15	15
さくらんぼ	10	10
置賜	12	10
庄内	7	10
新庄最上	2	5
ゲスト	25	
来賓	8	
合計	161	150

■経営体験報告

●報告者:社会保険労務士法人西塔事務所 代表社員 西塔秀幸氏
座長:後藤智樹氏

*次回報告者(敬称略)

月	報告者	座長
11月	高橋 明氏	庄司 薫氏
12月		

■その他

- 1)2015年全国共同求人交流会in沖繩(11/26～27 沖繩)
- 2)金融庁業務説明会・意見交換会(10/20) 齋藤専務理事出席
- 3)宮城同友会経営研究集会(11/24) 分科会報告者依頼の件
◎ソーラーワールド㈱ 代表取締役 武内賢二氏
- 4)第8回理事会日程

●日時:11月11日(水)14:00～16:00

●会場:同友会事務局(公共施設がとれません)

■閉会挨拶(菅原副代表理事)

いろんな意見が出され、同友会として抱えている重要な課題が浮き彫りになった。回数を重ねずにやってきた反省もあるのかなということ、増強では一人ひとり考え方が違うけれども決断したことはやるということ、組織委員会はサポートということで同友会の円滑な運営と会員企業の発展のために本質的な課題に対してどれどかフォーカスできるのかといったことが明確にできたと思う。30周年記念までは3ヶ月、500名達成には機運が必要で、入会やゲスト参加者が増えるということが、一番モチベーションが上がる。皆様のご協力をお願いしたい。

新会員紹介

◎吉田 昌永氏 ◎稲垣 輝明氏

吉田畜産㈱
専務取締役
食肉卸小売
山形支部

セブンイレブン新庄東山店
オーナー
コンビニ経営
新庄最上支部

支部・会員名・企業名・役職変更

- 株サードウェーブソリューションズ(置賜支部)
代表取締役 今泉 孝氏⇒取締役会長に変更
- サンシステム開発㈱ 代表取締役 中村友祐氏(山形支部)
⇒Niクリエイト 代表に変更

同友やまがた11月号(2015年11月1日発行/通巻272号)

From Editor

★収穫の季節を迎え、店頭にならんだ秋野菜に食欲がそそる。山形の風物詩といえども煮。今は便利な洗い里芋が主流だが、産直店で土付きのものがあれば、つい手が伸びる。この頃になると、遠い昔、亡き母との会話を思い出す。どこかの家でも畑があり、自家用の野菜をつくり、里芋を収穫すれば、低温で腐らないように丁寧に保存していた。★家庭を持ち、自分で料理をするようになり、とろけるような柔らかさを知ったのだが、「子どもの頃、うちで食べていたのは、ゴツゴツした親イモだったんだね」と私。「子イモ、孫イモは正月用にと大事にとっておいたんだよ」と母。「凍みて、傷んでしまっただね。美味しいうちに食べればよかった」とよく笑って話したものだ。モノのない時代を生きてきた親たちの思いが伝わってくる。★佐野洋子作の絵本に「おじ

さんのかさ」がある。いつも立派な傘を持ち歩いているおじさん。ちょっと頑固で大事な傘を濡らしたくないらしく、雨が降ってもささない。逆に人の傘に入れてもらうか雨宿りをしてしまう。あるとき、子どもたちの「雨が降ったら…」の歌に刺激を受け、はじめて傘を開き、濡れた傘もいものどとうっとりするおじさん。★よくある話で気持ちが良く分かる。先日、10年以上愛用したバッグを手放す時がきた。とてもお気に入りであり、いくつかのバックと季節に合わせて仕事用として使ってきたが、数年後に、家人のバックが壊れ、使っていなかったらとられてしまう。それからずっと、持ち手がボロボロになるまで使命を全うし、くたびれた姿になり、私のところに帰ってきた。家庭雑貨のゴミ袋に入れるには忍びなく、じっと見ている。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp